

「場」の技術：思想，応用，どうしよう

ー “アフォーダンス” から “聖地巡礼” までを手掛かりにした 「場」のデザインに関する研究方針の検討 ー

上杉 繁

早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科／

創造理工学研究科 総合機械工学専攻

〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1,59-308

E-mail: wesugi@waseda.jp

※<http://www.wesugi.mech.waseda.ac.jp/>

講演要旨

教育や医療・福祉などの様々な現場において，場づくりの試みやその関心はますます高まっている．こうした問題に取り組む上で，「場」の思想や哲学^(注1)，さらには工学的な技術^(注2)への期待は極めて大きいだろう．そして，講演者はこれまでに「場」の思想・構想に少なからず触発され，その工学的な技術に関する研究に携わってきた※．

本講演の冒頭では，「場」のデザインについて工学分野の研究者と議論をする際に生じた勘違いや誤解をあげ，個人的に注意を心がけている問題点について紹介する．

続いて，「場」のデザインという問題を深めていく上で，アフォーダンス (J.J. Gibson, D.A. Norman, 佐々木正人)，存在観的デザイン (T.A. Winograd, F. Flores)，Calm Technology (M. Weiser, J.S. Brown)，Tangible Bits (H. Ishii)，オートポイエーシス (H.R. Maturana, F.J. Varela, 河本英夫) などの構想と「場」のデザインとの関わりについて，意識の周辺・潜在領域としてそれらを支えている身体のはたらきに注目している，講演者の問題意識を紹介する．

最後に，文化的な側面から「場」のデザインという問題を検討するために^(注3)，日本のみならず世界中に存在する特別な「場」としての聖地に着目した．そこで，植島啓司の『聖地の想像力』を手掛かりに，聖地巡礼という経験における，身体感覚・身体行為との関わりについて検討する．すなわち，聖地という場所において創出するイベント的な現象である非日常的な身体感覚の変化と，聖地へと至る修行的なプロセスとしての巡礼における身体感覚・行為の変化に着目し，こうした身体感覚・行為の変化としての経験の変容という現象について検討する．そして，荒川・ギンズの構想や，河本のシステム論を足掛かりに，「場」のデザインに関する研究方針についてさらに検討する．

注1．最新の「場」の思想・哲学については，清水博（東大名誉教授）の場の研究所 (<http://www.banokenkyujo.org/>) や，大塚正之（早大）(<http://basho.image.coocan.jp/>) などを参照．

注2．最新の「場」の工学的な研究については，三輪敬之（早大）(<http://www.miwa.mech.waseda.ac.jp/>)，三宅美博（東工大）(<http://www.myk.dis.titech.ac.jp/>) などを参照．

注3．日本の「場」の文化という特徴については，上記の清水や三宅，さらには原研哉を参照．